

昭和41年度畑作用除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和41年度畑作関係新除草剤の作用及び適用性判定試験成績の検討会は客年12月15日東京で開催された。

その結果の概要をここに紹介する。

1) 供試除草剤の動向

当協会発足の昭和39年から同42年度の間に畑作用として供試された除草剤数について、対象作物別の傾向を示すと才1表のとおりである。すなわち、昭和38年度119薬剤・同39年度95薬剤・同40年度66薬剤・同41年度69薬剤・同42年度51薬剤がそれぞれ供試されている。委託件数は、やや減少の傾向にある。これは、畑作での除草剤使用条件が複雑であること、除草剤利用効果が小さいことなどのほか、畑作物は総じて生産力が低いので経済力が乏しいために除草剤の使用が水稻などにくらべ著しく低いことなどによるものと思われる。

次にこれを作物別にみると陸稲を対象としたものが最も多く、次いで麦類・落花生・てん菜・甘藷・豆類などの順になっている。畑作関係では年々20～30程度の薬剤が実用化に移されている現状である（才1表参照）。

2) 昭和41年度の試験結果の概要

今年度試験に供試された畑作用除草剤数については、さきに述べたとおり69薬剤であった。（供試薬剤をあげれば才2表の通りである）。

それらの中で、除草効果・作物に対する影響（薬害）などから有望と認められて昭和42年度から実用化に移されることになったものは合計27除草剤である。ただし、このうち一部のものは既に昨年度より実用化が認められていたものであるが、これらは適用地域・適用時期の拡大や効果の再確認等を目的として試験された。それを作物別にみると、陸稲5・とうもろこし2・大豆3・菜豆1・落花生4・甘藷6・馬鈴薯1・小麦3・さとうきび1・亜麻1となっている。

実用化の認められた除草剤の作物別使用基準を示すと才3表のとおりである。

また適用性判定試験の判定一覧については、才4表に示した通りである。

詳細については当協会発行の昭和41年度夏作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績総合要録（畑作編）を参照されたい。

< 第 1 表 > 畑作関係除草剤試験の推移

()内は対38年度比を示す

対象作物	試験年度別供試薬剤数					同左実用化に移された除草剤数			
	38年度	39	40	41	42	38	39	40	41
陸 稲	20 (100)	19 (95)	12 (60)	14 (70)	9 (45)	1	13	4	5
とうもろこし	21 (100)	16 (76.2)	7 (33.3)	4 (19.0)	3 (14.3)	0	4	3	2
大 豆	24 (100)	23 (95.8)	11 (45.8)	10 (41.7)	3 (12.5)	3	4	4	3
小 豆	0 (一)	0	2	4	4	0	0	1	0
菜 豆	0 (一)	1	1	1	3	0	0	0	1
落花生	5 (100)	7 (140)	6 (120)	5 (100)	7 (140)	1	1	2	4
かんしょ	9 (100)	8 (88.9)	4 (44.4)	9 (100)	3 (33.3)	0	1	2	6
ばれいしょ	10 (100)	10 (100)	0 (0)	1 (10)	0 (0)	0	3	0	1
てんさい	1 (100)	4 (400)	4 (400)	4 (400)	9 (900)	0	0	2	0
小 麦	4 (100)	3 (75)	4 (100)	4 (100)	1 (25)	0	1	0	3
さとうきび	0 (一)	0	2	1	1	0	0	1	1
亜 麻	0 (一)	3	1	1	1	0	0	1	1
そ の 他	0 (一)	0	0	1	2	0	0	0	0
作用特性 (畑一般)	25 (100)	1 (4)	12 (48)	12 (48)	5 (20)	—	—	—	—
合 計	119	95	66	71	51	5	27	20	27
同 比 率	100	79.8	55.5	59.7	42.9				

(注) ※ 実用化に移された除草剤は「実」と「実〜継」の判定を受けたものからなり、その判定の基準は次のとおり。

「実」 : 除草効果が大きく、被害が軽微〜無で、しかも作用性が解明されていて適用地帯・適用土壌・使用法などが確定でき、実用化可能と判定されるもの。

「実〜継」: 上記とともに適用地帯・適用土壌・処理時期などの拡大のためになお試験継続を要すると判定されるもの。

< 第 2 表 > 昭和 4 1 年度供試薬剤成分一覧表

区 分	薬 剤 名	成 分 及 び 成 分 含 有 率	委託会社名
A) 作用特性 試 験	1) M & B 9057 水和剤	メチル-4-アミノ-ベンゼンスルホニル カーバメイト 75%	塩野義製薬
	2) HE -314 乳 剤	ジフェニルエーテル系 25%	三 洋 貿 易
	3) OK-6621 水和剤	2,4-ジクロロフェノキン アセチル ヒドラシド 50%	大 塚 化 学
	4) ア レ シ ン 水和剤	N-(4-クロロフェニル)-N- メチル水素 50%	ア レ シ ン 普 及 会
	5) HW-40187 乳 剤	ジフェニルエーテル系 25%	保土谷化学
	6) NK -3504 乳 剤	ジニトロ化合物 20%	日 本 化 薬
	7) NK -3862 乳 剤	ジニトロ化合物 25%	日 本 化 薬
	8) トリアジン 粒 剤	CAT+A-1114 (プロメトリン) 15%+17%	日 本 化 薬
	9) HOE 2907 水和剤	尿素化合物 50%	ヘ キ ス ト
	10) TCAA 水和剤	アミド系化合物 50%	東 亜 農 薬
	11) マルチフィルム X-77	非イオン系界面活性剤	日 本 化 薬
	12) NK -6601	同 上	日 本 化 薬
B) 適用性 試 験 (1) 陸 稲	1) DIC -242 乳 剤	ナフテル系化合物 50%	大 日 本 イ ン キ
	2) CP-50144 乳 剤	- 48%	MN研究会
	3) TO -2 乳 剤	チアゾール誘導体 20%	東 洋 高 圧
	4) TO -5 水和剤	トリアジン系 50%	東 洋 高 圧
	5) B -2206 水和剤	- 50%	イハラ農薬
	6) STI -100 乳 剤	D CPA+TW-100 (シクロヘキ セニルシクロヘキサン) 34%+17%	イハラ農薬
	7) TOA -100 乳 剤	D CPA+α	東 亜 農 薬
	8) CMBU 水和剤	N-パークロロフェニル-N-メチル- N-イソプロチニルウレア 50%	北 興 化 学
	9) UC-22463 粒 剤	3,4-ジクロロベンジルメチル カーバメイト 5%	長 瀬 産 業
	10) MCC (SWEP) 水和剤	メチル-N-(3,4-ジクロロフェニル) カーバメイト 40%	ス エ ッ プ 研 究 会
	11) A-1803 水和剤	CAT+プロメトリン (A-1114) 15%+40%	日 本 化 薬
	12) SA -41 乳 剤 (SA-41114)	0,0-ジイソプロピル-2-(ベンゼン スルホン アミド)エチルジチオホスフェート+ プロメトリン 50%+5%	日 本 農 薬 東 洋 棉 花
	13) CP-45592 乳 剤	2-プロモ-6-ターシヤリブチル-N- (メトキシメチル)0-アセトリイダイト 48%	MN研究会
	14) TDW -6643 水和剤	ジチオカーバメート誘導体 30%	東 亜 農 薬

区 分	薬 剤 名	成 分 及 び 成 分 含 有 率	委託会社名
(2) 春播小麦	1) OK-6621 水和剤	前掲参照(作用特性) 50%	大塚化学
	2) DCNP+MCP 水和剤	DCNP-Na+MCP-Na 85%+20%	石原産業
	3) Certrol+MCP水和剤	3,5-ジヨード-4-ハイドロキシベンゾニトリル リチウム塩+MCP 20%	2,4-D普及会
	4) M&B 8873 乳 剤	3,5-ジヨード-4-ハイドロキシベンゾニトリル 25%	塩野義製薬
(3) かんしよ	1) SW-6508 水和剤	2,2,3,3-テトラフルオロプロピネート塩 30%	三共・ダイキン
	2) M U P C 乳 剤	ブチノール-N-(3-クロロフェニル) カーバメート+N-シクロオクチル-N- ジメチルウレア 10%+15%	北興化学
	3) STI-100 乳 剤	前掲参照(陸稲)	イハラ農薬
	4) DCPA 35 乳 剤	3,4-ジクロロプロピオンアニリド 35%	DCPA普及会
	5) F-52 粒 剤	トリジン系+尿素系 2.5%	ダイキン工業
	6) H-634 水和剤	3-シクロヘキシル-5,6-トリメチレン ウラシル 80%	丸和物産
	7) N I P 乳 剤	2,4-ジクロロフェニル-4- ニトロフェニルエーテル 25%	スタム・ニ ツブ普及会
	8) トリフルラリン 乳 剤	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ -N,N-ジプロピル-P-トリジン 47.9%	塩野義製薬
	9) リニユロン 水和剤	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1- メトキシ-1-メチル尿素 50%	アフアロン 研 究 会
(4) 大 豆	1) CP50144 乳 剤	- 48%	MN研究会
	2) TO-5 水和剤	トリアジン系 50%	東洋高压
	3) DIC-243 乳 剤	ナフテル系 50%	大日本インキ
	4) トリフルラリン 粒 剤	前掲参照(甘しよ) 2.5%	塩野義製薬
	5) トリフルラリン 乳 剤	前掲参照(甘しよ) 47.9%	塩野義製薬
	6) CP45592 乳 剤	2-プロモ-6-ターシャリブチル-N- (メトキシメチル)-0-アセトトリイダイド 48%	MN研究会
	7) C-3126 水和剤	N-(P-ブロムフェニル)-N-メチル メトキシウレア 50%	チバ除草剤 普 及 会
	8) A-1803 水和剤	前掲参照(陸稲) 15%+40%	日本化薬
	9) F-52 粒 剤	トリジン系+尿素系 2.5%	ダイキン工業
	10) CNP(MO- 888) 乳 剤	2,4,6-トリクロロフェニル-4-ニトロフェニル エーテル 20%	MO普及会
(5) 小 豆	1) DNBP A 乳 剤 (アレチット)	DNBP A 60%	北海三共
	2) DCNP-Na 水和剤 (クリノン)	2,4-ジクロロ-6-ニトロフェニルナトリウム 85%	石原産業
	3) C-8126 水和剤	前掲参照(大豆) 50%	チバ除草剤 普 及 会
	4) HOE 2907 水和剤	前掲参照(作用特性) 50%	ヘキスト
菜 豆	1) DNBP A 乳 剤 (アレチット)	前掲参照(小豆) 60%	北海三共

区 分	薬 剤 名	成 分 及 び 成 分 含 有 率	委託会社名
(7) 落花生	1) A-1803 水和剤	前掲参照(陸稻) 15%+40%	日本化薬
	2) トレフラン 粒 剤	前掲参照(甘しよ) 2.5%	塩野義製薬
	3) SLH-14 乳 剤	N-ブチル-N-エチル- α, α, α - トリフルオロ-2,6-ジニトロ-P- トリイジン 15%	塩野義製薬
	4) UC-22463 粒 剤	前掲参照(陸稻) 5%	長瀬産業
	5) CNP (MO-888) 乳 剤	前掲参照(大豆) 20%	MO普及会
(8) とうもろこし	1) C-3126 水和剤	前掲参照(大豆) 50%	チバ除草剤 普及会
	2) RO-40 乳 剤	S-エチルシクロヘキシルチオカーバメート 72%	東洋棉花
	3) E P T C 乳 剤 (エブタム)	S-エチルジプロピルチオカーバメイト 50%	東洋棉花
	4) SA-41 乳 剤	前掲参照(陸稻) 50%+5%	日本農薬
(9) さとうきび	1) アトラジン 水和剤	2-クロロ-4-エチルアミノ-6- イソプロピルアミノ)-S-トリアジン 50%	日本化薬
(10) てんさい	1) H-669 乳 剤	尿 素 系 50%	丸和物産
	2) P C A 水和剤 (ピラゾン)	1-フェニル-4-アミノ-5- クロロピリダゾン-6 80%	ピラゾン 研究会
	3) E P T C 乳 剤	前掲参照(とうもろこし) 72%	東洋棉花
	4) RO-40 乳 剤	前掲参照(とうもろこし) 72%	東洋棉花
(11) ばれいしよ	1) SA-41 乳 剤	前掲参照(陸稻) 50%+5%	日本農薬
(12) 亜 麻	1) DCNP+MCP	2,4-ジクロロ-6-ニトロフェノールナトリウム +MCP-Na 85%+20%	石原産業
(13) 非農耕地	1) OK-6511 乳 剤	フエノキシ酢酸+マレイン酸ヒドラジド 21%+9%	大塚化学

< 第 3 表 > 昭和 4 1 年度の畑作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使用量(成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯
1. 陸 稲	STI-100 乳 剤	雑草処理	DCPA CHCH 17+8.5 ~20.4+10.2	生 育 期	洪積および 冲積土壌	全 域 (DCPA地帯)
	MCC(SWEP) 水和剤	土壌および 雑草処理	40~50	播 種 直 後 ~ 出 芽 期 (葉身展開前)	全 般	全地域
	UC-22463 粒 剤	土 壤 処 理	30~40	播 種 後	火山灰土壌	暖地を除く全地域
	A-1808 水和剤	土 壤 処 理	CAT A-1114 2.25+6.0 但し砂壤土では 1.5+4.0	播 種 後	火山灰土壌	暖地を除く全地域
	SA-41 乳 剤	土 壤 処 理	S-41 A-1114 20+2 ~40+4	播 種 後	火山灰土壌	暖地を除く全地域
2. 春 播 小 麦	DCNP+MCP 水溶剤	茎 葉 処 理	20+4	発 芽 期	北 海 道 火 山 灰 畑	北海道春播小麦地帯
	Certrol +MCP	茎 葉 処 理	Cert. MCP 2+4~4+4	発 芽 期 ~ 5 葉 期	北 海 道 火 山 灰 畑	北海道春播小麦地帯
	M&B 8873E	茎 葉 処 理	2 ~ 3	3 ~ 5 葉期	北 海 道 火 山 灰 畑	北海道春播小麦地帯
3. かん し よ	STI-100 乳 剤	雑草処理	DCPA CHCH 13.6+6.8 ~17+8.5	生 育 期 (適期苗出)	洪積および 冲積土	温 暖 地 域
	DCPA-35 乳 剤	雑草処理	20	生 育 期	洪積および 冲積土	全地域(DCPA地帯)
	NIP 乳 剤	土 壤 処 理	25~30	挿 苗 前	全 般	全 地 域 (高畦栽培は除く)
	リニユロン水和剤	土 壤 処 理	7.5~10	挿 苗 前	全 般	全 地 域 (高畦栽培は除く)
	H-634水和剤	土 壤 処 理	8~10	挿 苗 前	全 般	全 地 域 (早畑甘藷は除く)
	トリフルラリン 乳 剤	土 壤 処 理	10~15	植 付 後	火山灰土壌 (砂壤土を除く)	洪積火山灰土地帯

	薬 剤 名	処 理 法	使用量(成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯
4. 大 豆	トリフルラリン乳 剤	土 壤 処 理 中層(0~7 cm)混層処理	7.5	播 種 前	洪積火山灰土壌	北海道・東北・東山の 大豆生産地帯
	C-3126 水和剤	土 壤 処 理	15~20	播 種 後	砂壤土を除く火 山灰性土壌	全 域
	CNP (MO-338)乳剤	土 壤 処 理	20~30	播 種 後	全	全 域
5. 菜 豆	DNBPA (アレチット) 乳 剤	土 壤 処 理	20~30	播 種 後	火山灰性土壌	道東地帯
6. 落 花 生	A-1808 水和剤	土 壤 処 理	CAT A-1114 1.5+4.0~2.25 +6.0 但暖地 では1.5+4.0	播 種 直 後	砂壤土を除く 火山灰畑	洪積火山灰土壌
	トリフルラリン粒 剤	土 壤 処 理 (表 面 処 理)	10~15	播 種 後	洪積火山灰畑	イネ科優占の同左地帯
	UC-22463 粒 剤	土 壤 処 理	30~40	播 種 後	火山灰畑	主としてメヒシバ優占畑 に適用
	CNP (MO-338) 乳 剤	土 壤 処 理	20~30	播 種 後	洪積火山灰畑	関東以西で九州などの西 南地方は除く。 (メヒシバ優占畑)
7. と ろ ろ こ し	C-3126 水和剤	土 壤 処 理	15~20	3~5葉期	砂壤土を除く 火山灰畑	火山灰畑
	SA-41乳 剤	土 壤 処 理	S-41 A-1114 20+2~40+4	播 種 後	洪積火山灰畑	暖地を除く
8. は し れ い	SA-41乳 剤	土 壤 処 理	S-41 A-1114 20+2~40+4	播 種 後	洪積火山灰畑	暖地を除く
9. さ き ひ ら	アトラジン水和剤	土 壤 処 理	5~10	植付後~発 芽期培土後	洪積土壌	南西諸島
	DCNP+MCP	生育期処理	18+4	草丈5cm期	沖積火山灰性 土壌	全 道
10. 亜 麻						

注) なお、使用上の注意等については、当協会の昭和41年度夏作関係作用性・適用性判定試験成績総合

要録(畑作編)、あるいは各普及所・メーカーの説明書参照のこと。

< 第 4 表 > 実 用 化 判 定 表

区 分	実 用 化	実 と 継	継	継 ?	中 止
(1) 陸 稲	STI-100 MCC (播種後～出芽期)	UC-22468 A-1803 SA-41	CP-50144 TO-2 B-2206 TOA-100 CMBU* TDW-6643	DIC-242	TO-5 MCC (生育期) CP-45592
(2) 春播小麦	DCNP+MCP Certrol+MCP M&B8873E			OK-6621	
(3) かんしよ	STI-100 DCPA35 NIP リニユロン(挿苗前)	H-634 トレフラン乳剤	MUPC F-52	SW-6508	リニユロン (挿苗後)
(4) 大 豆	トリフルラリン乳剤 C-8126	CNP(MO-888)	CP50144 DIC243 トリフルラリン乳剤 A-1803 F-52		TO-5 CP45592
(5) 小 豆			DNBPA (アレチット) DCNP-Na C-8126 HOE-2907		
(6) 菜 豆	DNBPA				
(7) 落 花 生		A-1803 トレフラン粒剤 (表面処理) UC-22468 CNP(MO-888)	SLH-14 トレフラン乳剤 (混和処理)		
(8) とうもろこし	C-8126	SA-41	RO-40 EPTC		
(9) さとうきび	アトラジン				
(10) てんさい			H-669 PCA(移植) EPTC RO-40		PCA (直 播)
(11) ばれいしよ		SA-41			
(12) 亜 麻	DCNP+MCP				
(13) 非農耕地			OK-6511		